令和８年２月10日

保護者の皆様

県立市ケ尾高等学校
校　長　　富澤　桂子

令和７年度第２回「生徒による授業評価」集計結果について

令和７年 12 月、本校生徒に対し「生徒による授業評価」を実施しましたので、結果を報告いたします。

１　授業評価の概要と結果

（１）評価項目

大項目	設問	小項目
授業の在り方について	1	毎時間の授業や単元のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。
	2	単元（内容のまとまり）の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。
	3	単元（内容のまとまり）の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。
学習の状況について	4	授業の中で身についたことや、できるようになったことを実感することができた。
	5	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた。
	6	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。
	7	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。

（２）評価

（１）の項目について次の４段階で評価を行った。

４　かなり当てはまる　　３　ほぼ当てはまる

２　あまり当てはまらない　　１　ほとんど当てはまらない

（３）集計と処理

教科ごとに集計を行い、小項目の評価が肯定的な回答（評価「４　かなり当てはまる」又は「３　ほぼ当てはまる」）の割合を算出した。教科ごとに肯定的な回答の割合が**最も高い項目には塗りつぶし太字**、**最も低い項目には下線**で明示した。

（４）各教科の小項目の肯定的な回答の割合

設問	1	2	3	4	5	6	7
国語	90.4%	**92.2%**	**92.2%**	86.4%	91.2%	91.1%	89.5%
地歴・公民	89.0%	87.7%	89.0%	85.8%	87.8%	89.0%	**93.1%**
数学	88.2%	86.5%	**93.1%**	92.9%	84.8%	90.3%	92.7%
理科	89.0%	84.5%	91.4%	89.4%	84.5%	90.8%	**92.1%**
保体	91.0%	90.3%	**92.9%**	91.6%	90.6%	92.7%	92.3%
芸術	92.8%	93.1%	92.5%	**96.4%**	94.3%	90.4%	91.0%
外国語	89.0%	**92.3%**	90.2%	89.9%	90.8%	91.3%	92.2%
家庭	90.8%	92.2%	92.6%	**95.0%**	93.3%	94.3%	92.9%
情報	86.9%	76.7%	85.8%	**90.6%**	76.7%	89.7%	90.1%

※塗りつぶし太字は教科内で最も割合の高いもの、下線は教科内で最も割合の低いものを表します。

各教科の分析と改善の手立て

	分析	改善の手立て
国語	・設問２と３の評価が特に高く、設問４が低くなるという傾向は以前のままであった。そのため、自らの考えを深め広げていく活動はできているものの、具体的に何かができるようになった実感を得づらいという課題は完全には解決できなかったと言える。 ・一方で、評価そのものはすべての項目で約２～３％向上していた。本校の生徒は全体的に好意的な授業評価をする傾向にあるので、この結果も慎重に受け取るべきではあるが、各教員が課題意識を持って取り組んだ成果はあったと考えてよいのではないか。	・前回の分析の際に示した以下の手立てを今後も継続して行う。 ①学習活動の中での言語活動を通して、自ら考え、その上で他者と関わり伝え合う「対話的な学び」を行う機会を今後も確保する。 ②身に付けた知識や技能を実践できるようなテストや演習の機会を用意する。
地歴公民	・設問４に対して肯定的な回答をした割合は、前回より5.8％増加しており、グループワークやICT活用、小テストや振り返り活動といった知識の活用にむけた手立てが一定の効果をもたらしたと考える。設問７は肯定的な回答が最も高い結果となり、学習内容のつながりを意識させる授業展開が実践できていると言えよう。 ・前回の「改善の手立て」において、設問１，２，５の数値向上を図ることを掲げたが、いずれの値も肯定的な回答の割合が増加した点について、主体的・対話的で深い学びとなる授業展開に一定の効果が得られたと考える。	・これまでの取り組みを継続しながら、基礎的・基本的な知識・技能の定着とそれらを活用する場面の充実を図り、効果的な学習活動を展開していく。また、小テストや振り返り活動を通して生徒が学習内容を主体的に確認できるようにするほか、生徒が自ら課題を見出し解決を図る活動を単元のまとまりの中で計画的に取り入れ、生徒が理解できたという実感や達成感を得られる授業づくりを目指すことによって、改善傾向が見られたものの依然として最も肯定的な回答割合が小さい設問４の肯定的な回答割合向上を図る。
数学	・第１回と比べ、全体的には３～４％上げることができた。特に設問２、５において、生徒同士の考え方を知る機会が少ないと感じている生徒が多い状態を改善することができた。電子黒板の導入による板書の簡略化により、時間を取りやすくなったことも要因と考えられる。 ・また、設問３、６において、問題を解く過程が、探究的な学びのプロセスで身につく能力を育むことにつながっているのではないかと考えられる。	・引き続き、電子黒板の活用方法や教示の仕方について情報交換を行うなど、組織的な授業改善に取り組むとともに、改善結果をどうやって数値化していくかを考えていく。
理科	・前回の授業評価と比較すると全ての項目で肯定的な回答が２ポイント以上の上昇，特に項目３，４，７においては４ポイント以上の上昇がみられた。電子黒板の導入による視認性・可読性の向上や，それに関連してICT教材を利用しやすくなったことも理由の一つと考えられる。 ・項目７については肯定的な回答が９割を越えた。これまでの学びに関連付ける単元縦断的な学習や探究活動に一定の効果が表れたと考えられる。 ・前回に引き続き，項目２と５が比較的低く伸び悩んだ。理科の教科特性として答えがある問いを扱うことが多いため，一人一人が異なる意見や考えを持つことが難しいことが理由として考えられる。	・電子黒板の有効な活用法を模索する。 例として，生徒が電子黒板に接続しやすくなった環境を利用して，グループ活動・発表の機会を増やす。アクティブラーニングツールの活用で生徒の考えを吸い出す。などが挙げられる。 ・「問題に答えるための探究・実験」から「課題を解決するための探究・実験」へ。正解のない問いを扱うことで，生徒一人一人の個性ある考えを引き出し，共有することで思考・判断・表現力の醸成を図る。
保健体育	・体育館の使用が出来なくなったので実技に制限がかかってきたところだが概ね前回を上回る数値か同等の数値となった。 ・生徒の満足度は一概に実技に則したものではないのかもしれない。	・生徒自身が出来た実感を得たり、自分の課題が客観視できるようにタブレット等のを活用し自分の動きを撮影・分析する機会をつくるとさらに満足度の向上が見込める可能性があると考える。
芸術	・ほぼすべての項目において前回と同様の結果となり、概ね良好な評価であった。特に、前回から設問４と５が上昇している。これは、芸術の中で他者との情報交換を行う意義や達成感を得られる授業づくりが功を奏したと考えられる。 ・その一方で、設問６が最も低くなっている。毎時間の授業で、考えをまとめたり、課題の解決について考える時間をかけるよう努めたが、実感を得るには至らなかったとうかがえる。	・設問６の「自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすること」を実感させるためには、知識を得る場面、考えをまとめる場面などの説明を丁寧に行い、題材の取り組み内容への理解を深められるよう心掛ける。 ・また、今後も教科の特徴を生かし、引き続き自ら考え表現し、他者の考えを知り、豊かな感性を育む課題構成、授業展開を実践していきたい。
外国語	・第１回と比較すると肯定的な回答の割合はほぼ横這いであったが、「かなり当てはまる」と回答した生徒の割合はすべての設問において減少しており、授業に対する生徒の満足度はやや低下した結果となった。特に、設問４および設問７では「かなり当てはまる」と回答した生徒の割合が約６％減少している。これは、年度の後半に入り授業の難易度が上がったことにより、生徒自身が十分に授業内容を理解し、定着できていない、また既習事項を体系立って整理することができていない可能性がうかがえる。	・特に満足度の減少が目立った設問４および設問７に対しては、毎時あるいは毎単元のはじめに学習のねらいを明確化することでいっそう見通しをもった授業を心がける必要がある。 ・生徒が授業を通して身につけられた事項を明確に実感できるような授業を行うこと、また新出事項を扱う際には既習事項との異同や類似点などに触れ、知識を体系づけて示すことなどが改善の手立てとして考えられる。
家庭	・1学期と比較すると、学習状況についての項目において３～７％の満足度上昇がみられた。特に項目４「身についたことやできるようになったことを実感できた」生徒が７％増加したが、２学期は製作中心の学習内容であったためと考えられる。また、授業の在り方についての満足度は１％の上昇がみられた。実習やプレゼン中心の授業展開であったため、項目２「他者の考えを知り、自分の考えを広げ深める機会がある」項目３「課題について自分の考えをまとめ解決方法について考える場面がある」と実感できた生徒が増えた反面、項目１「単元の学習のねらいを示したり、振り返る機会がある」について０．６％減少していた。毎時間欠かさず実施しているが、衣生活分野において、製作や実験の時間確保を優先したため、周知が煩雑になっていた可能性があるので改善したい。	・分野ごとに、授業展開が大きく異なるため、実習・実験・製作の単元の満足度は高い傾向にある。知識中心の単元においても、主体的に深い学びになるように工夫するとともに、自分事として捉え理解した上で、将来活用できるような授業を引き続き構築していきたい。
情報	・第１回と比較すると肯定的な回答の割合は平均すると微増した。設問４に関しては増加傾向が見られ、授業の中での取り組みが自分自身のものになり、かつ活用できるようになったものと思われる。 ・一方設問２、４については肯定的な回答が減少しており、問題演習や個々の作品作りなどの時間を増やしたため、他者の考えを知る機会が減ったことが原因と考えられる。	・今後は、グループワークをより多く取り入れるなど教材の研究、工夫するとともに、年間で扱う教材の比重配分などを最適化し、より専門性の高い分野であっても他者の考えを知ることのできるよう十分な時間をかけていきたい。